

令和4年度 <教職員向け自己評価表のまとめ>

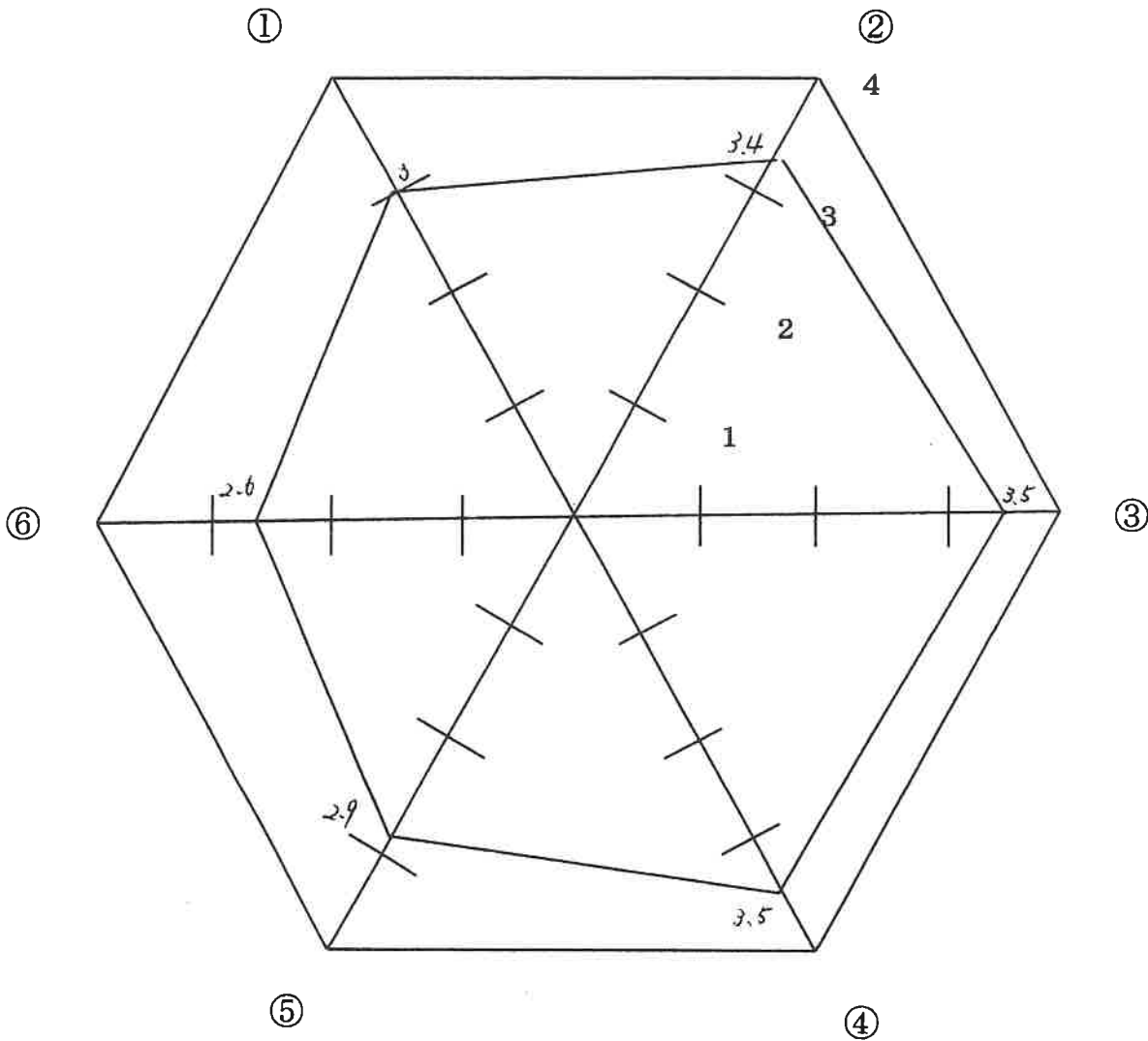
長岡天徳・聖母幼稚園 組(担任・副担任・補助・給食・事務・バス) 年齢別担当(0・1・2・3・4・5)

(評価例) 4…よくできている 3…まあまあできている 2…あまりできていない 1…全くできていない

評価項目	内 容	評 価	課題と今後の解決法	
①保育の計画性	園の理念・教育要領・教育課程	●園の建学の精神や理念、教育目標を理解している	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●園の建学の精神や理念が全体的に欠けている。しかし、今年度はM理論等を通して理念等に触れる機会があった。また精神や理念等の話し合う場をもつた方が良い。</li> <li>●発達を通しての環境構成がうまくいかない為、活動へ繋げる事が難しい。子どもの様子や遊びをよく見ていく事が大切である。</li> <li>●教師自身の環境対しての意識が薄い。</li> <li>●自己評価(見返り)を行う事は出来ても、全体で話し合う場がもてない。未満足はノートを書く事で毎日見返す事ができる。</li> </ul>
		●教育要領を読み、園理念の理解とあわせて園長や保育者と話し合う	2.8	
		●指導計画は、教育要領・教育課程そして幼児の実態に即して作成し、周囲の状況や変化に対応できるものとしている	3.3	
	環境構成	●指導計画に基づいた安全で安心感、清潔感のある環境を構成する	3.3	
		●幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や道具に配慮し、必要な数量を用意する。	3.3	
		●幼児の発達を見直し、より豊かな活動が展開できるよう環境を再構成する	3.1	
		●園内外の自然への理解や、季節の変化に応じた環境の構成をする	3.3	
評価・反省	●自己の評価についての評価・反省をさまざまな観点から行う	3.1		
	●自分の保育を評価・反省することで、園全体の保育に活かしている	2.7		
②保育のあり方・幼児の対応	健康・安全	●日頃から園内の危険箇所を配慮する	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝の視診と健康観察カードをベースにし、子ども達の変化に気をつけている。</li> <li>●ヒヤリハットの意識づけを習慣づける。</li> <li>●危険箇所はすぐの周知・対応が大切である。</li> <li>●幼児理解は子どもの観察と関わりが重要であり、課題となる。</li> <li>●その子にとっての「出来る様になった」をしっかりと把握する。</li> <li>●忙しい時の子ども達の状態を見直し成長発達の援助に繋がられない。</li> <li>●子どもの成長発達を把握すると同時に全体で話し合う、声に出す事が欠けていた。声に出す事で色々な角度からの視点により、援助法が見つけられる。一人で保育しようと思わず、みんなで協力し子どもを育てる事が大切である。</li> <li>●毎日の行動に余裕を持つことが良い保育に繋がられる。</li> <li>●教職員同士伝え合う事が必須で課題となる。</li> <li>●保護者対応の前段階とし、把握、報告、相談が重要。</li> <li>●正確な事を適切な言葉で伝えなければ、受け取り方の方向性が違ってくる(慎重なやりとり)。保護者のみでなく職員間も同じである。</li> <li>●園外での活動を増やし、地域のひととの挨拶を交す事から進めていく。</li> <li>●小学校との交流は年長が主であるが、コロナ禍で活動も少なかった。散歩等を通して、学校の場所を知るところからも意識づけになると思う。</li> <li>●実際の担当ではなくても準備等の協力体制が出来ている。</li> <li>●研修の参加後は、自分の保育の見直しのみだけでなく、次年度は研修報告会を開いたり、報告書を提供し全員で学べる様にする。</li> <li>●研修で学んだ事を活かしてきていない。</li> <li>●コロナも少しずつであるが落ち着いた社会的にも緩和されつつある。リモートより現場で受ける研修に参加したい。</li> <li>●保護者対応の研修に参加したい。</li> <li>●社会情勢、子育て支援、少子化等を理解し、預かるだけの保育ではなく、毎日の中に少しずつ色々な活動を加えられたら良いのではないかと。(楽しい預かり保育)</li> <li>●アレルギー対応も今まで通りの大勢で常に危機管理のもとに進めていきたい。</li> </ul>
		●毎日の園児の健康視診を大切に	3.5	
		●事故や怪我が発生した場合は迅速に適切な処置を行う	3.6	
	幼児理解	●幼児一人ひとりをよく観察し、幼児の思いを受け止める	3.4	
		●幼児同士のかかわりの姿から、個々の成長発達をふまえ、見直しをもって理解する	3.3	
	指 導	●幼児の思いや考えに共感し、受け入れる	3.2	
●規範意識・道徳性を培ううえで、モデルとなるよう心がける	3.2			
●幼児の年齢・発達に応じた指導や援助をする	3.2			
③保育者の資質・能力	姿勢能力職務組織	●ふさふさい清潔感のある服装、髪型、身だしなみを心がける	3.7	
		●職務上の情報等の秘密を保持する	4	
		●社会人の常識をわきまえ、行動する	3.7	
		●教職員組織の協働性を大切にし、チームとしての自覚をもつ	3.7	
		●率直な意見交換を行い、組織内の問題の共有化に努める	3	
		●当番や役割業務など、課せられた仕事は確実に実行	3.4	
●保育者としての感性・教養を深める	3			
④保護者への対応	対 話 交 流 クレーム対応	●保護者に幼児の様子を的確に伝える	3	
		●保護者からの相談や要望をよく聞くよう心がける	3.4	
		●保護者との対応には公正さを信条とし、保育時間外でも誇りと自覚をもった言動・行動を心がける	3.5	
		●電話での対応は、わかりやすく真摯な対応に努める	3.4	
		●保護者からの話で、自分で判断出来ない場合は、園長主任等に報告、連絡、相談をする	3.8	
		●クレームの内容によっては教職員組織全体で共有化し、共通理解のうえで対処する	3.4	
⑤地域・自然	地域・自然 人との かかわり	●地域の自然や施設、行事等について理解し、利用する	2.8	
		●地域のひと々とあいさつや会話を交わし、親睦に心がける	3.1	
		●小学校の教育内容について理解するよう努める	2.5	
		●地域の小学校行事や公開授業等に関心をもつ	2.9	
		●子育て支援や地域開放について、内容を理解する	3	
⑥研修と研究	地域・自然 社会との かかわり	●子育て支援や地域開放について、教職員全体で取り組む	2.9	
		●研修や研究会には自己課題をもって積極的に参加する	3.3	
		●自分の保育について自己課題をもって研究を行う	3	
	研修・研究への 意欲・態度	●自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	3	
		保育者としての 専門性に関する 研修・研究	●幼児の発達に必要な知識を学び、現場に生かす研修・研究を行う	2.9
			●記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行う	2.6
			●教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う	2.8
			●実践に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行う	2.6
			●幼児の発達を見直した環境構成や教材に関する研修・研究を行う	3
			●保護者への対応に関する研修・研究を行う	2.9
●地域社会との交流に関する研修・研究を行う	2.1			
●組織内の協力・連携に関する研修・研究を行う	2.7			
今日的課題に 関する 研修・研究	●アレルギー、成長の遅れ、問題のある幼児について理解する	3.3		
	●預かり保育や子育て支援について研修する	2.4		
	●幼小連携の必要性や具体的な方策について研修する	2.6		
	●子どもたちの安心・安全に関する、危機管理の必要性と対応について研修する	3.1		
	●社会情勢について関心をもち、研修する	2.6		

令和4年度 <<自己評価項目のまとめ>>

認定こども園 長岡天使聖母幼稚園



総合所見と来年度の課題と目標

- ・研修を通し自分の欠けている部分が見えてきたが、それを次のステップに活かす事がうまく出来ない。見返すことは少しずつ出来始めている。弱い所を意識し、保育にあたりたい。
- また、研修した事を自分だけにとどめず周知する事を課題とする。
- ・職員間の話し合い、伝達も今以上に活発化したい。